

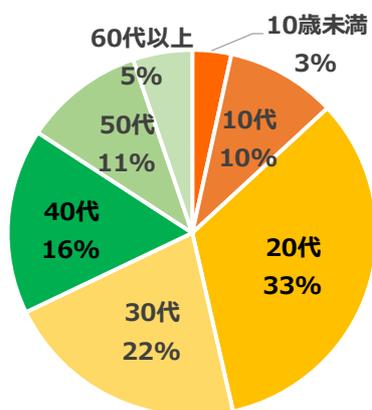
新型コロナウイルス感染急拡大！

今までと何が違うの？

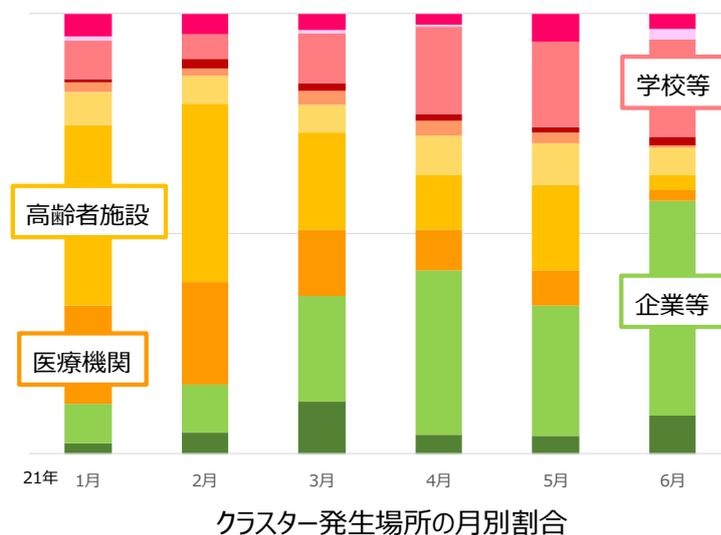
流行初期の頃と違い、現在は感染力の強い変異ウイルスがその主流となっています。また都内各地で人流が増加し、加えて夏の暑さによる適切なマスク着用が難しい時期となっています。現在の感染急拡大は、ウイルスの変異だけではなく不十分な感染対策によることも大きな要因となっています。最近では20代30代の若い世代が半数以上を占め、無症状者も少なくありません。無症状者が気付かないうちに周囲に感染させてしまうことは、これまでも多く報告されています。以前は、重症化する患者の多くは高齢者でしたが、変異ウイルスによる感染者の中には40代50代で重症化する事例が出てきています。

どんなふう to 感染？

医療従事者や高齢者へのワクチン接種が進み、医療機関などでの集団感染事例は減少していますが、代わって、職場や学校など若い世代が関係する集団での感染事例が増えています。対策がなされる中で感染が起こってしまうのは、近い距離でのウイルスを含んだ飛沫の吸い込みや不十分な手指衛生による接触感染が起こっていると考えられます。最近では、休憩時間中の飲食や喫煙、部活動、寮生活などで感染し、さらに家庭内に感染が広がる例も報告されています。感染力と感染スピードが従来と比較して高いため、わずかな時間の接触であっても感染する可能性があります。



年齢割合 (21年7月27日発表の新規陽性者内訳)



どうやって防ぐの？

変異ウイルスが流行する中、屋外での感染例が報告されるなど、これまでのように「3密」を回避するだけでは感染を防ぐことが難しい状況となっています。マスクなしでの会話は屋内屋外問わず感染リスクが高いため、人との距離が近い場合は必ずマスクを着用しましょう。食事中は大声での会話はせず、できるだけ短時間で済ませましょう。

ワクチンは2回接種することにより高い確率で発症を防ぐことができます。発熱など接種後の副反応が現れることがありますが、ほとんどは1~2日程度で消失します。一方、ワクチンを接種しなかった場合は感染すると症状が出やすく重症化するリスクも高まります。重篤な肺炎を引き起こすと長期にわたり入院が必要となります。また、回復しても後遺症が続くなど、体調がなかなか戻らないといった報告もあります。